

農林中央金庫の目指す姿

非連続な変化が続くと予測されるなか、組織としての課題解決力を高めていくためには、理念を共有し、自らの役割を認識し、そして役職員が自律的に活躍していくカルチャーが必要だと考えています。これを受けて、私たちは“持続可能な環境や社会のために未来に向けてどのような貢献をしていくのか”という問いに対する「パーパス(私たちの存在意義)」を定めています。

このパーパスのもと、私たちが中長期的に向き合っていく環境・社会課題を「重要課題」、この課題解決に向けて私たちが中期的に目指す姿を「中期ビジョン」として設定しています。

また、この目指す姿の実現に向けて、私たちが日々業務を実践していくにあたり、土台とするべき価値観を「共有価値観」として定めています。

理念

Purpose

持続可能な環境や社会のために未来に向けてどのような貢献をしていくのか

パーパス
(私たちの存在意義)

Materiality

中長期的に向き合っていく環境・社会課題

パーパス実現のための
重要課題

事業活動

Vision/Strategy

重要課題の解決に向けて、私たちが中期的に目指す姿

中期ビジョン

価値観

Shared Value

目指す姿の実現に向け、私たちが日々業務を実践するための土台

共有価値観



グローバル



プロフェッショナルリティ



チームワーク



チャレンジ



成長

パーパス(私たちの存在意義)

「人のいのち」と「食べ物(生物)のいのち」と「地球(星)のいのち」は繋がっています。
私たちが生きるためには食べ物が必要、食べ物を届けてくれるのが農林水産業、農林水産業が作り出す食べ物すなわち動物や植物は、水や空気といった自然の恵みの授かりもの。
自然の恵みは、持続的な地球環境があつてこそもたらされるものです。
こうした「いのちの連鎖」を踏まえ、私たちが掲げる「持てるすべてを「いのち」に向けて。」というコーポレートブランドのタグラインをもう一段具体化して、次のように「パーパス(私たちの存在意義)」を定めました。

持てるすべてを「いのち」に向けて。

ステークホルダーのみなさまとともに、
農林水産業をはぐくみ、豊かな食とくらしの未来をつくり、
持続可能な地球環境に貢献していきます

当金庫のステークホルダーについて ▶ P.89-90

パーパス実現のための重要課題

パーパスを実現していくために、私たちが解決すべき重要課題を次のとおり定めています。

▶ P.29-30



脱炭素社会の
実現



自然と共生する
社会の実現



農林水産業の
“稼ぐ力”の強化



強靱な食料システムの
実現



国内外での
“豊かな”くらしの実現

中期ビジョン

Nochu Vision 2030

～未来を見据え、変化に挑む～

2024～2030年度を期間とする「中期ビジョン」を策定しています。この中期ビジョンで定めた「2030年のありたい姿」を経営の羅針盤に位置づけ、私たちは毎年の事業運営にあたっています。

▶ P.31-32

共有価値観

農林中央金庫の役職員全員でいま大切にしたい価値観として、次の5つを定めています。

グローバル

私たち農林中央金庫は、地域の協同組織に立脚した金融機関でありながら、資金・情報・ノウハウのグローバルな活用を通じて、農林水産業・地域社会に貢献するという社会的役割を担っています。私たちは、一人ひとりがグローバルを意識し、グローバルとローカルを双方向から繋ぐ当金庫らしいユニークな事業を通じて、その使命を果たしてまいります。

プロフェッショナリティ

金融機関・農林水産業を取り巻く環境が時代とともに変化するなか、農林中央金庫は設立から現在にいたるまで、自らを変革することによって適応し、約100年にわたって使命を果たしてきました。次の100年も使命を果たしていくため、私たちは、プロ意識と高い専門性を追求し、当金庫ならではの価値を提供することで、ステークホルダーのみなさまから真に必要とされる存在になることを目指します。

チームワーク

ステークホルダーのみなさまの様々な期待に応えていくためには、様々なバックボーンを持った役職員が協働・共創することが必要です。私たちは、個人としては目的意識と自己責任意識を持ち、チームとしてはお互いに思いやり、信頼・尊重して、コミュニケーションを大切にしながら、チームワークを最大限発揮してまいります。

チャレンジ

変化の激しい時代において、経営の健全性を保ちながらステークホルダーのみなさまの期待に応えていくためには、新たな価値創造を続けていく必要があります。私たちは、パーパスをしっかりと見据え、変化をチャンスと捉え、積極的にチャレンジしてまいります。

成長

私たちがパーパスを発揮し続けるためには、持続的な成長を実現し、ステークホルダーのみなさまから必要とされる存在であり続ける必要があります。私たちは、一人ひとりが成長を実現することで、組織としての成長を実現し、社会への更なる価値提供を目指します。